

やる気は環境で変わる 本人らしい自由気ままな生活を支える福祉用具

1. 家電製品はどこで手に入れる

たとえば「炊飯器を買い替えよう」と考えたら、恐らく多くの人が家電量販店に行き、そこで販売員の方に相談をするのではないだろうか。

「炊飯器を探している」と伝えると、販売員から「何人家族ですか」「何合炊きますか」「冷凍はしますか」等と様々な事を質問してくるだろう。質問に回答をすると、それにあった『炊飯器』を紹介される。ただそれだけで終わらないのが販売員である。「この炊飯器は〇〇に優れている」「こっちの炊飯器と比較すると〇〇が劣る」等とこちらが求めている以上の回答があり、そこには機能の比較やメリット／デメリットを説明された方が多いだろう。

そもそもなぜ炊飯器を買い替えたいと思ったのかも重要なポイントである。「簡単に／楽に炊きたい」「おいしく炊きたい」「家族のお弁当をおいしくしたい」など、様々な思いがあるはずだ。そして思い通りの『炊飯器』が購入できたその日からの家事が楽しくなり、自分や家族のためにおいしいご飯を作ろうという意欲が出てくるはずだ。

さて、なぜここまで『炊飯器』の話をしてきたかという、福祉用具やそれを提供する福祉用具専門相談員（以下、相談員）、使用する利用者も同様ではないかと私は考えるからである。①購入者（利用者）のアセスメント（情報収集）、②比較選定、③メリット／デメリット（リスク）の説明、そして④用具（炊飯器）を使ってどうなりたいのかを考え、より合ったものを提供する。そうすること

で障がいや高齢になってできなくなったことができるようになり、「〇〇をしよう／〇〇ができるかもしれない」と思えるようになるのではないかと私は考える。

2. 福祉用具の役割と福祉用具へのイメージ

福祉用具とは、介護保険制度上「要介護者等の日常生活の便宜を図るための用具及び要介護者等の機能訓練のための用具であって、利用者がその居室において自立した日常生活を営むことができるよう助けるもの」とされている。

病気や怪我、年齢の影響で寝起きが大変になった方に対して、手すりや特殊寝台（以下、電動ベッド）を導入して、動く事を補助する。寝起きが自力で出来ることで、日常生活に繋げて、生活の幅が広がり、生活の質を高められるのが福祉用具である。

しかし、そんな福祉用具を勧める際に「〇〇を使ったらもっと弱くなる／動けなくなる／もっと頑張らないと良くならない」と、良く聞かすのが本当かそうだろうか。先に話した炊飯器を例にすると、高機能な炊飯器を使って体や頭は弱くなるだろうか。怠けようとするだろうか。逆に利用する本人が求めるモノが手に入れば「やろう」という意欲に変わらないだろうか。

そもそも「眠る」場所で頑張る必要はあるのだろうか。寝起きだけに体力を消耗しては、その他の日常生活を遂行することも難しく、生活の質が落ちるだろう。

福祉用具は、利用する人の身体状態や環境及び利用者自身のニーズにマッチし、正しく活用することで初めて



執筆 ▶

代永裕樹

株式会社カラース 福祉用具事業部 福祉用具専門相談員
大田区福祉用具事業者連絡会会長 作業療法士